

市では、現在新たなまちづくりの指針となる新総合計画の策定を進めています。計画を審議する総合計画審議会の委員の皆さんに、これからのまちづくりに期待することなどを伺います。



仙台市社会福祉協議会  
副会長  
阿部重樹 さん

### プロフィール

学校法人東北学院常任理事。社会福祉を専門に、仙台市の地域福祉計画に広く携わる。仙台市社会福祉審議会委員長、宮城県障害者施策推進協議会会長

**Q** 総合計画の審議において大切視している視点は？

**A** 人口減少や少子超高齢化が進む中、地域の在り方も大きく変わってきています。それに対応して地域連携、地域協働を活性化させようとするなら、行政と地域社会の関わり方も見直す必要があります。行政と大学の連携や企業、地域住民との協働など、パートナーシップを強化した新しい取り組みや試みも求められるでしょう。

また社会福祉の分野では、平成28年から国の政策目標として「地域共生社会の実現」を掲げています。仙台市の新総合計画においても、重視すべき考えだと思っています。

**Q** 地域共生社会の実現を図るためには？

**A** 厚生労働省が掲げているキーワードは、「我が事・丸ごと」。地域社会の福祉ニーズや生活課題を他人事ではなく「我が事」として捉え、地域で助け合っていく。それを支援する行政も従来の縦割りではなく、組織や分野を横断した「丸ごと」で支えていく。また、その人の生活そのものを「丸ごと」で考えるという意味合いもあります。

具体例を二つ挙げるなら「8050問題」。就職氷河期に正規雇用が困難だった世代が実家にひきこもったまま50歳代を迎え、その子を養う親は80歳代で要介護となり、双方とも生活が行き詰まってしまう。この問題にはさまざまな要因が重なっており、まさに「丸ごと」で考えていかなければなりません。行政の支援だけで解決できるも



大学生が地域との交流事業に関わることは大切です

## 仙台市の健康づくりの取り組み

仙台市の平均寿命は年々延びており、平成27年の国の調査では、男性81.7歳、女性87.6歳と20政令指定都市の中で男性は2番目、女性は4番目の長さとなっています。仙台市民のがん検診の受診率は、政令指定都市の中で、乳がん1位、大腸・子宮頸がん3位、胃・肺がん検診は4位と高水準であり、病気の予防に対する市民の意識の高さが、平均寿命の長さの一因となっているのかもしれませんが、一方これからの時代は、健康寿命(日常生活に制限のない期間)の長さも大切であると言われ、政令指定都市の中で男性は6番目、女性は8番目、平均寿命と健康寿命の差は男性9.4年、女性13年となっています。

仙台市では、20歳の市民に無料で歯科健診を実施する事業や、歩数などを記した看板の設置に対し経費を補助して歩数アップを狙う事業を行うなど、ライフステージに応じた市民の健康づくりに取り組んでいます。



のではなく、地域全体での連携・協働が大切です。

**Q** 新総合計画に期待することは？

**A** 人口減少社会の本格化に加えて、仙台市は政令指定都市の中でも若者人口の流出率が非常に高くなっています。若者から選ばれるまち、安心して暮らせる地域社会をつくっていくためにも、東京とは別の豊かさや魅力を訴えていくことが重要です。新総合計画においても、仙台独自の豊かさを発信できるものになればと期待しています。

仙台が誇るべき強みは、市民協働のまちづくりが早くから行われ

てきたこと。そして、東日本震災を皆で乗り越えたこと。支え合いの温かさを実感した都市だからこそ、その経験を生かした地域づくりを意識したいものです。

また支え合いの大切さを学ぶためには、ボランティア活動も有効だと思えます。「学都仙台」ならではの取り組みとして、大学生が商店街活性化活動などの地域連携に関わる機会を多く設けたり、企業の社会貢献活動に学生を巻き込んだりするのもよいでしょう。学生時代に地域社会の豊かさを体感することで、卒業後も仙台で暮らしたいという若者が増えることを願っています。